科目名			担当教員	
教育・学校心理学Ａ（教育心理学）			白井　秀明	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
FE2547	2	1	RorSR (講義)	1 年以上
生成 AI 利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※2018 年度以降に入学した方が対象の科目です。2017 年度以前に入学した方は履修登録できません。
※2017 年度以前に入学した方は、「教育心理学」（科目コード：FE2513）を履修登録してください。

科目の概要

■科目の内容

「心理学」の中で最も有名な研究のひとつに、エビングハウスが行った記憶の研究があります。「人はなぜ忘れるのか？」という発想で、記憶や忘却のメカニズムをはじめて科学的に研究したからです。一方、「教育心理学」では、「どうしたら忘れなくなるか？」という発想をします。この発想の違い、つまり“学ぶ人の味方になって考える”ことが、教育心理学的に考えるということです。子どもであれ大人であれ何かを学ぶ人は、まちがったりつまずいたりすることもある、それはきっと本人なりの理由があるにちがいない、その“言いぶん”にじっくり耳を傾けてその対策を考える、というわけです。

本科目で使用する教科書には、算数や国語などの具体的な教え方ではなく、“学ぶ人の味方”という考え方や発想を生んだ研究が数多く紹介されています。ご自分の「教育」「学習」「発達」などに対する考えとつきあわせると同時に、「ほほう、こういう考えや研究は学ぶ人の味方になっているな」などと、ご自分の日常生活、仕事等の体験の中で生じる問題解決方法の“ヒント探し”をしながら読み進めていただければ、と思います。

■到達目標

１）人間の子どもが成長・発達していくことにとって「教育」が不可欠であることについて、具体例を挙げて説明することができる。
２）「教育と発達の関係」について、２つの大きく異なる考え方を学び、どちらが “学ぶ人（子ども）の味方”になる考え方なのか、自分なりの理由を持って説明することができる。
３）「学ぶ」というプロセスが「わかる」と「わからなくなる」の繰り返しであること、「つまずき」を学びのスタートにすることによって「学ぶ楽しさ」が生み出されること等の意味について、具体例を挙げて説明することができる。
４）学校などで行われる授業も含めて、ある目的を持った活動を続けていくためには、「自己評価」が大切であることを、自分の仕事や生活の中にある目的的活動を例に説明することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「主体的協働力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 40%＋スクーリング評価 or 科目修了試験 60%の配分で総合的に評価します。

■教科書・参考図書

【教科書】

永野重史編著『教育心理学―思想と研究』放送大学教育振興会、1997 年

（スクーリング時の教科書）スクーリングでは教科書に沿った進め方はしません。配付資料やビデオを使って進めます。教科書を持参して授業中に自分で線を引く、書き込むなどは自由になさってください。

【参考図書】

園田富雄監修・著　山崎史郎編著『新版教育心理学ルック・アラウンド―わかりたいあなたのための教育心理学』ブレーン出版、1992 年

教育心理学の主な領域の内容が網羅されています。初学者が、教育心理学の全体的な骨格を知るには適書だと思います。

宇野忍編『授業に学び授業を創る教育心理学　第２版』中央法規出版、2002 年

題名からわかるように、授業実践の実例を豊富に取り上げながら教育心理学の諸問題について書かれてあります。と同時に、学習者の味方になって授業を創っていこうという姿勢が貫かれている、とも言えるでしょう。教員志望の方にはぜひともお読みいただきたい一冊です。

永野重史著『教育心理学通論―人間の本性と教育』放送大学教育振興会、2001 年

教育心理学の再入門のために書かれた本です。「教育」「学習」「発達」などに関するご自分の考えをさらに整理する目的でお読みいただけたら、と思います。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

「教育」について再考する心理学的な視点を学んで欲しいと思います。そのためには、「教える」「学ぶ」という普段何気なく使っていることばの意味について、各自が自分で再吟味する必要があります。そこで、授業の目標を「到達目標」に掲げる４点に絞ります。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	「教育」ってなんだろう？	①「人間らしさ」とは何か ②人間には、「少年」「少女」という「教育の時代」がある ③人間は、集団で生活する「社会的動物」である
2	「教育」をうばうとヒトはどうなるのか？	①「社会的隔離児　ＦとＧの事例」から学ぶ ②「社会的隔離児　アヴェロンの野生児」から学ぶ ③これらの事例からわかること
3	「教育」ってなんだろう？　リターンズ	①学校外教育と学校教育の違い ②学校外教育の重要性 ③再び学校教育の意味を問い直す
4	教育と発達の関係	①発達って？ ②発達は何によってもたらされるのか？ ③2 つの対照的な発達観 ③-1 J.ピアジェの発達段階説

		③-2 J.ピアジェの発達段階説の特徴 ③-3 J.ピアジェの「発達段階説」の呪縛から解き放たれるために ③-4 L.S.ヴィゴツキーの「発達の最近接領域説」 ③-5 発達の最近接領域が子どもによって違うのはなぜか
5	ヴィゴツキーとピアジェの「教育と発達の関係」の比較	①ヴィゴツキーの「教育観」とは ②ピアジェの発達段階という考え方の弱点 ③ヴィゴツキーから教育を捉え直す
6	「教える」とは…その根底にある態度・考え方	①学習者の「つまずき」を理解する ②「子どもの味方になる」とは ③学習者のつまずきを支援するには？ ④学習意欲の正体？学習意欲を引き出すには ④-1 外発的動機づけを利用する ④-2 内発的動機づけを利用する
7	教育評価について	①今の自分の考えを書いてみよう！ ②目的的活動と評価活動について ③再び「評価」とは ④授業の改善と調整のための教育評価 ⑤教師が収集すべき情報について
8	まとめ	
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

自作の（書き込むための余白を多めにとった）プリント教材と資料、さらにビデオ教材を使いながら授業を進めます。スクーリングの中で２つのレポート課題のエッセンスもお話しします。

■スクーリング　評価基準

スクーリング最終授業で授業の要点の振り返りと試験を行います。スクーリング評価の基準は、最終授業で行われる試験 100%で評価します。スクーリングの内容から２題。「授業の感想」も書いてもらいます。授業での学びが日頃の仕事や生活のこととどのように結びつけられるようになったのかを自身の授業の自己評価として知りたいからです（持ち込み不可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

教科書『教育心理学ー思想と研究』の第１章から第８章を中心に一読してきてください。わかるところもあるし、わからないところもたくさんあるな、と思ってもらえれば結構です。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	教育心理学とは何か （第１章）	教育心理学は、考えることのみに頼りがちな哲学とは異なる方法で人間にアプローチする学問であることを知る。また、誕生当初の主立った研究の概要から、教育や社会に役に立つ体系的な知識を求めて教育心理学がスタートしたことを知る。	教育心理学は、一般心理学とは異なり“2 つの応用”という側面を持った心理学だと書いてあります。その意味について、誕生当初の諸研究を、社会や教育に役立つ知識を得るためにどういう方法で研究し、実際そういう知識が得られたのか、という視点から再検討してください。
2	心理学者の考え方のスタイルと教育観 （第２章）	クロンバック（L.J.Cronbach）が提唱した心理学についての３つの考え方の違いを知る。また、エルカインド（D.Elkind）の２つの教育観の違いを知る。それらにより、教育心理学は「よい教育とは」という価値から離れることはできないことについて考える。	人間観（人間とはどういう存在か）、研究観（研究にとって何が大切か）によって、心理学を大きく３つにわけています。大きく２つにわけた教育観は、それらの３つのどの考えに強く影響されているのかについて整理してください。さらに、ご自分の考え方がどれに近いのか考えてみると楽しくなります。
3	行動主義の学習心理学とその応用 （第３章）	2 種の条件付けの違いについて具体例を挙げて説明する。また、行動主義の技法の応用の実際を知り、メリットとデメリットについて考える。特に、プログラム学習と「応答的な環境」の相違点について説明できる。	2 種類の条件付けの違いは、もとになる反応が「受動的か、積極的か」です。さらに、「できる」を少しずつ積み重ねていくことがプログラム学習の特徴ですが、「応答的な環境」は、賞を期待したり罰を避けることによって行動を形成する学習ではありません。大切なことですので、両者の異同についてじっくりと考察してください。
4	学習の認知理論 （第４章）	「認知主義の学習」は、第３章の「少しずつ行動を変化させる」という「行動主義の学習」とは何が異なるのか説明できる。人間や人間に近い動物は、部分をみる、機械的に記憶する、試行錯誤（行き当たりばったり）するなどよりも、心のなかにある仕組みを使ってうまく行動できることを知る。	「見る」という感覚から情報を入力するとだけ捉えがちなことが、心の仕組みを使って「考える」とそれほど明確に区別がつかないことに気がついて欲しいです。今まで出会ったことのない「問題」を解決するのも同じことですね。
5	発達の心理学①発達の考え方の変遷 （第５章）	ピアジェ（Piaget, J.）が想定している「認知構造の発達段階」について、普遍性の高い理論をつくろうとしたことからくる特色や問題点を説明できる。また、さまざまな観点から検討課題が残されていることについて知る。	子供は大人とは違った見方、考え方をすることを示したことが、ピアジェの最大の貢献です。しかし、人間の発達を考える上で検討課題も多々残したことも事実です。それぞれ具体的に説明できるようになって欲しいです。
6	発達の心理学②新しい発達の考え方 （第６章）	ヴィゴツキー（Vygotsky, L.S.）が想定した人間の発達についての考え方について知り、人間がつくり出してきた文化、社会そして教育と人間の子供が発達する過程が、どういう関係にあるのか説明できる。特に、ピアジェの考え方とどこが異なるのか自分なりに説明できる。	ヴィゴツキーの発達理論は、教育（文化、言語、等の獲得）が発達をつくるという考えです。発達段階に合わせて（丁度いい段階に来るまで待って）教育をする、というピアジェの考え方とは大きく異なりますね。

7	動機づけの心理学 （第７章）	動機づけの考えの基になった「ホメオスタシス」という生理的なメカニズムについて知る。また、そこから考え出された「社会的強化」という動機づけによって説明できる行動もあるが、「好奇心」や「達成動機」など他の心の働きによっておきる行動の方が多いことを、それら用語の意味と共に具体的に説明できる。	「ホメオスタシス」という生理的な平衡状態を保つメカニズムを手本にした「社会的強化」では、人間の心の中にある「やってみよう」「おもしろい」「楽しい」を説明しようとしても、上手くいかないことに気づいてください。どうしても、「好奇心」や「達成動機」等の他の心の働きに言及しないと説明できない行動があるのです。
8	自主性と意欲 （第８章）	「自己原因性」という言葉の意味について理解を深める。その上で、達成行動における２種類の目標と行動の特徴と２ 種類の知能観について、対比的かつ具体的に説明できる。	人間は誰かに言われてする（やめる）ことが生来的に嫌いなのであり、本来は自分の行動の原因主体であることを望んでいる、という考えに対する理解を深めてください。他者に対する自分の行動の振り返りの視点になります。
9	人間観と教育① （第９章）	３ つの人間観があることを知り、その上で時代や社会の構造の変化と、その時代に求められた人間観の変化に対応関係があることについて説明できる。	「いくつもの教育心理学がある」というのがこの教科書の立場です。それら「いくつも」の違いが出てくる根本にあるのが「人間観の違い」です。①では行動主義的な人間観について注目して、教育に対する考え方の違いについて整理をしてください。
10	人間観と教育② （第 10 章）	３ つの人間観があることを知り、各自が持つ人間観が異なることによって、知識、学習、動機づけ、学習環境、教育評価、教師といった教育に登場するキーワードに対する意味づけが異なっていることについて意識でき、その違いを対比的に説明できる。	②では、認知主義、状況主義の人間観から見た場合の教育に対する考え方の違いについて整理をしてください。
11	教育評価とは何か （第 11 章）	教育評価には大きな２つの目的があることを知る。また、手段としての教育測定について測定結果を表現する　２ つの準拠方法の違いについて説明できる。	形成的評価、総括的評価、あるいは相対的評価、絶対的評価など、意味の曖昧な用語が教育の中で使われているのが現状です。ここで言う ２ つの準拠方法の違いや評価の利用計画、評価方法、評価主体、評価結果を利用する人等の違いによって、それらを整理できるようになって欲しいです。
12	記憶の心理学と教育 （第 12 章）	無意味綴りを用いた記憶のメカニズム（第 1 章 pp.16-18 参照）や記憶過程のモデルを「研究」しただけでは、私たちが日常使っている言葉や経験したことを使って考えるための記憶研究にはならないことを知る。	教育に役立つ記憶の研究には、普段私たちがする「考える」「推論する」「創造する」などの心の働きと切り離した「記憶のみ」の研究では不十分であることに気づいて欲しいです。
13	知能と創造性 （第 13 章）	「知能」は多面的、多角的に捉える必要があることを知る。知能テストについて実施目的や結果の使われ方が歴史的に変わってきたことを知る。創造性についても、さまざまなとらえ方があることを知る。	「知能」や「創造性」という言葉で表そうとしている心の働きは、まだまだ心理学の中で共通した考え方はありません。両者を区別することも賛否両論です。対象となる課題分野やその人が育ってきた文化などに影響を受けない「知的な能力」を測るテストなどそう簡単にはつくれないことに気づいて欲しいです。

14	道徳性の心理学と教育 （第 14 章）	「道徳性」という心の働きの質的な変化としての発達や変化を起こすための経験や環境の与え方（広い意味での教育）などについて、どのような研究がなされてきたかを知る。	「道徳性」を、きまりにしたがう、先生や親のいうことにしたがうなど、広い意味で「考える」という心の働きと切り離して捉えることはできないことに気づいて欲しいです。
15	教育方法の分析 （第 15 章）	発見学習をめぐる議論から、2 つの異なる「方法」による「学習」の成果を比べるという研究だけでは、教え方の善し悪しを判断するのは難しいことを知る。学習に影響を与える 4 つの要因について知る。	教育について議論するには「学習の方法」だけでは十分でなく、何を学習したのか、どんな学習をしたのか、といった「学習の内容」についても考えていく必要があるということに気づいて欲しいです。

■レポート課題

※パソコン印字での提出も可能としていますが、みなさんとのレポートのやりとりは「授業」に相当すると考えています。みなさんの「表情」を読み取ることが少しでも可能な「手書きレポート」を読むことができなくなるのはとても残念なので、できる限り手書きにて作成していただくことを強く希望します。

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	ヴィゴツキーの「発達の最近接領域説」は、どんなところが “学ぶ人の味方” になっている考え方か。ピアジェの「発達段階説」と対比させて説明しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

レポートを書くにあたって、教科書だけに頼るのでなく、教科書や文末に紹介されている参考文献などからの“輸入”は大歓迎です（“輸入元”はレポートに明記してください）。“わかること”と“わからなくなること”が交互に繰り返される、それが何かを学ぶ筋道だと考えるからです。ポイントは、「発達」に対する「教育」の役割を、両者がどう考えているかです。もちろん、ここでいう教育とは、学校教育だけでなく、社会的・文化的経験などを含めたもっと広い意味での教育活動のことです。間違いやつまずきを示す、いいかえると、発達が滞っている人に対して教育活動を受動的・消極的にとらえているのはどちらでしょうか。能動的・積極的にとらえているのはどちらでしょうか。まず、「教育」と「発達」の関係に対する両者の考え方の違いを対比的に示して欲しいのです。そして、両者の「教育」と「発達」の関係に対する考え方とご自分の考えとつきあわせた結果、自分は「教育」「発達」についてどう考えるか（考えられるようになったか）も、ぜひお書きいただきたいと思います。

科目修了試験

■評価基準

- 問題によって設定されたこと（異同点を延べよ、違いを明確にせよ等）について、的確な言葉を使って論理的に説明されているか。
- 具体例を挙げて、となっている設問には、①読み手にわかるように、②的確な具体例を挙げてあるのか。